

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年2月8日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	サンクトペテルブルク国立大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/> 1.研究職 <input type="checkbox"/> 2.専門職(医師・法曹・会計士等) <input type="radio"/> 3.公務員 <input type="checkbox"/> 4.非営利団体 <input type="checkbox"/> 5.民間企業(業界:) <input type="checkbox"/> 6.起業 <input type="checkbox"/> 7.その他()			

派遣先大学の概要				
1724年創立のロシア最古の大学。現在までモスクワ国立大学と並んでロシアのトップ大学であり、前大統領メドベージェフ、現大統領プーチンなどの政治家も多数輩出。				
留学した動機				
欧米とも日本とも違う角度から世界を眺めるという体験をすること 第二外国語であったロシア語の上達 本物の芸術に触れ、オペラやバレエ等の日本では触れる機会の少ない芸術への造詣を深める				
留学の時期など				
①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部3	年生の	夏 学期まで履修
②留学中の学籍:	留学			
③留学期間等:	2015年	8月～	2016年	1月
	学部3	年時に出発		
④留学後の授業履修:	2016年	学部4	年生の	夏 学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016年	学部4	年生の	3月頃に
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		54	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			10 単位
	留学後の取得(予定)単位			26 単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2013年	4月入学	2017年	3月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	4年		ヶ月間	
⑨留学時期を決めた理由:				
自分の専門と直接の関係がないロシアという場所に留学するならば、学部生のうちしか機会はない。4年生は就職活動等で忙しくなることが予想されるため、最後のチャンスだと思った。				

留学の準備					
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)					
健康診断書のロシア語訳が少々手間取るが、本学のロシア語の先生に添削してもらうなどするとよい。エイズの診断書はとくに提出を要求されることはなかった。					
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)					
送られてくる向こうの大学からの招待状があればビザはすぐ下りる。一週間程度。受付時間が短いので注意のこと。					
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)					
①に同じ					
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)					
付帯海学					
⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)					
冬学期を丸ごと留学したのでそういった特別措置は取っていない。					
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)					
出発前は基本的な会話能力も怪しいというところまでロシア語を忘れていた。ロシアではロシア語以外は通じないのでもちろんだが、出来るだけ準備をしていくべき。					
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど					
コメなどは現地で買えるが出汁は手に入らないので、かつおだしなど持っていくと自炊に重宝する。					
学習・研究について					
①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合) ※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。					
授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
ロシア正教と外交	2	●			
ロシア・アメリカ関係	4	●			
ロシアのアイデンティティ	4	●			
ロシア語	8				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)
講義形式は教授によって全く異なる。どの授業においても、講義形式の部分より、ヨーロッパの学生とのディスカッションが面白かったように思う。ロシア・アメリカ関係の教授は留学生にも心配されるくらい激烈な政府批判を繰り返していたので、来年あたりはもういないかもしれない。
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など
知らないことが多く復習に時間を掛けたかったのと、ロシア語の語学学習も並行して進めたかったので、一日に一コマか二コマにとどめた。
④学習・研究面でのアドバイス
英語の科目を中心にとることになるが、余力があればロシア語で行われている授業も履修することは可能。ロシア語で行われているものの方が内容も深く講義の種類も圧倒的に多いので、ロシア語力に自信があればそちらも検討してみるとよい。
⑤語学面での苦勞・アドバイス等
ロシア語と英語のスイッチをうまく切り替えるのが苦勞した。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
寮、4890ルーブル、おおむね清潔であり、この値段は格安だと思う。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
ペテルブルクは冬も比較的温暖だが、それでも-26度まで下がったこともあった。日本から持参できるものにも限界があるので、防寒具は現地で購入するのが良い。物価は日本より安い。外食続きだとそれなりにかさむので、自炊が安い(ジャガイモ1キロ20円)。お金は現金(ユーロで持参、機を見て現地で両替)、新生銀行の口座(ATMで引出可)、クレジットの3つに分けて持参した。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は良好。夏は観光客目当てのスリなどもいるので、人ごみなどでは基本的な自衛は必要。寒さは慣れるので、必要以上に気にする必要はない。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
奨学金7万円におさまるように調整していた。そのうち実際の生活費は寮費1万円+食費や生活用品代など3万円ほど。残りの3万円は書籍・オペラ・旅行など。
・留学に要した費用総額とその内訳
総額54万円。航空費(往復14万円)・現地での生活・娯楽費(約30万円)・帰国時の旅行費(10万円)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
東京大学経由で、The Fung Scholarshipから奨学金を受給。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
大学のチェスクラブへ通った。オペラ・コンサートは週に1回程度。長期休暇はロシア国内や東ヨーロッパ諸国の旅行。
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
ロシア特有の官僚主義・紙面至上主義は大学も例外ではないが、大学では英語も通じるうえ誠意ある対応を取ってくれるので助かった。ロシアでは身元が保証されていることが何より重要なので、その点サンクトペテルブルク大学の学生証には大変助けられた。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
大学キャンパスはエカテリーナ大帝が建てた壮麗な建物で、ほんとうに大学かと目を疑うほど。図書館の自習室は大きい露英辞典があり、静謐で学習がはかどる。食堂は安くて良い。全学にwifiが飛んでいるのも優れている。
留学と就職活動について
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
研究も良いが、まずは広い社会に出ていろいろなものを見ようと思わせてくれた。
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください
()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:) ()4.非営利団体(団体名又は分野:) ()5.民間企業(企業名又は業界:) ()6.起業(分野:) ()7.その他()
留学を振り返って
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
ロシアという、欧米でも日本でもない地点から腰を据えて国際情勢を観察できたこと。その結果、多角的かつ客観的に日本国内を流れる情報をつかめるようになったと思う。 それと関連するが、ロシア語という新たな言語世界に入ることができたということ。

②留学後の予定
公務員試験対策・就職活動
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
英語圏以外が面白いと思う。是非ロシアへ。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年 3 月 4 日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	サンクトペテルブルク大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/> 1.研究職 <input type="checkbox"/> 2.専門職(医師・法曹・会計士等) <input type="checkbox"/> 3.公務員 <input type="checkbox"/> 4.非営利団体 <input type="checkbox"/> 5.民間企業(業界:) <input type="checkbox"/> 6.起業 <input type="checkbox"/> 7.その他(未定)			

派遣先大学の概要

サンクトペテルブルク国立大学は帝政ロシアの時代に設立された総合大学です。大学本部や伝統ある学部の校舎は、市内の中心部にあります。ソ連崩壊に伴い、レニングラード国立大学から現在の名前になりました。大統領のプーチンやメドヴェージェフなどの著名な政治家を数多く輩出しています。

留学した動機

駒場の2年間では西洋政治思想を中心に学習し、本郷では一年半に渡って、ユーラシア大陸の政治、特に近世帝国(ロシア・清・オスマン・ハプスブルク)の統治原理とナショナリズムの時代におけるその変容と崩壊というテーマについて取り組みました。西洋であり、同時に西洋でもないロシアというフィールドに魅力を感じ、留学を決意しました。19世紀から20世紀にかけてロシアを覆った共産主義イデオロギー、それに対するアンチテーゼとしての道標派の思想、正教の精神性、ユーラシア主義の動向などスケールの大きいテーマが多いことも刺激的でした。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015 年	学部4	年生の	夏	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2015 年	8 月～		2016 年	1 月
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2016 年	学部5	年生の	夏	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016 年	学部5	年生の	5 月頃に	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		82	単位	
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位		未定	単位	
	留学後の取得(予定)単位		未定	単位	
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2012 年	4 月入学		2017 年	3 月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5 年		ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

就活等と被らない範囲内で。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

学習計画や志望動機、健康診断書等を、国際交流本部を通じて、留学先の学部に提出します。後述するように、健康診断書の準備に時間がかかります。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

サンクトペテルブルク大学から送付された招待状を持って、在京ロシア大使館領事部に就学ビザ申請を行います。ビザ発給まで約1週間(無料)です。最初はシングルエントリーのビザ(滞在期間3か月弱)しかもらえないので、ロシア入国後に大学のビザ・パスポートセンターを通じて、移民局にマルチ・エントリー、期間延長を申請する必要があります。9月下旬から11月上旬まではパスポートが手元になく、この期間、一時出国ができないことは言うまでもなく、長距離列車の切符も買えないので注意してください。また、更新されたビザの受領が往々にして遅れるので承知しておいてください。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

健康診断書(日本語)は自分で露訳を作り、公証役場で公証を受けた後、在京ロシア大使館領事部に出向き、翻訳証明を受けます。健康診断書のみならず、公証の文書も露訳を作成する必要がありますので注意してください。この手続きに関して詳しい説明は一切なく、いくつかの公証役場に問い合わせても事情に疎いところが多かったので大変苦労しました。ロシア大使館に近い麻布十番にある公証役場がおすすめです。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京海上日動火災。留学保険は強制加入です。被験者証は、学生寮への入寮や現地の事務局で提示を求められる場合があるので、忘れずに持参しましょう。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

単語が分からなければ、会話も進まず、本も読めないで、単語の暗記に専念しました。留学中も同様です。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日本でしか入手できないお土産品を持参することをお勧めします。親しい友人の間では贈与社会が成り立っています。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位認定の申請	授業科目名	単位認定の申請
ロシア正教会(国際関係学部)	●		
ロシア語(言語学部)	●		

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

<p>講義のスタイル、時間は日本の大学とほとんど同じです。語学の講義は途中の休息を含めて一コマ約3時間でした。担当講師によって講義内容、スタイルはかなり異なるようです。作文や文法の練習問題等の予習を授業の前日や休日に行っていました。</p>
<p>③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など</p>
<p>履修登録した科目は、ロシア正教会(週一回)とロシア語(週二回)のみです。他にもロシア語で行われている国際関係学部の講義を語学の学習も兼ねて聴講に行っていました。平日は朝6時起床、夜12時就寝のスタイルを維持し、講義以外の時間は寮または国立図書館で勉強していました。</p>
<p>④学習・研究面でのアドバイス</p>
<p>⑤語学面での苦勞・アドバイス等</p>
<p>留学当初は相手の言っていることが全く聞き取れず苦しみましたが、2、3ヵ月経つと自然に耳が慣れてくるので日常生活はほとんど支障がなくなります。聞き取れないことは話せない、読めないことは書けないので、リスニングや単語が重要であると思います。</p>
<p>生活について</p>
<p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)</p>
<p>市内中心部に近い学生寮に住んでいました。留学申請時に入寮希望をすれば住むことができます。家賃は毎月約1万円です。エレベーター等の施設は老朽化が否めませんが、部屋はとても快適でした。早めに入寮した方が良い部屋にあたる確率が高いようです。私は共用キッチン、トイレのついた二人部屋に住んでいました。ロシアの建物はセントラルヒーティングシステムを採用しており、細かな温度調整ができない点は不便です。</p>
<p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</p>
<p>秋から冬にかけて、鬱蒼とした天気が続きます。冬は寒さが厳しく-10度以下になる日もあります。言語学部の校舎は市内中心部にあり、立地条件は抜群です。一方で国際関係学部の校舎は寮から通学に最低1時間かかり、最寄りの地下鉄駅からは遠く、不便です。市内の移動はバスが基本になります。地下鉄はバスよりも速く移動できますが、路線の接続が悪く、閉鎖されている駅もあるため、細かな移動には不向きです。食事は基本的に朝と夜は寮で自炊し、昼はスタローバヤ(食堂)やカフェでとっていました。一日三食500円以下で腹一杯食べることができました。お金は海外専用のクレジットカードを利用してATMから現金を引き出していました。</p>
<p>③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)</p>
<p>治安は特に問題ありません。時間と場所を間違えなければ怖い目に遭うこともまずありません。公共交通機関におけるスリ被害の事例が最も多いですが、私は幸い一度もそのようなことはありませんでした。市内中心部の主要な駅、地下鉄駅付近では警官にパスポートの提示を求められることがあります。</p>
<p>④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)</p>
<p>・毎月の生活費とその内訳</p>
<p>寮費 1万円 食費1万5千円 交通費(地下鉄・バス定期券) 2000円 書籍代 5千~2万 娯楽費 5千~1万 書籍代 5千~2万 娯楽費 5千~1万</p>
<p>・留学に要した費用総額とその内訳</p>
<p>航空賃 20万 生活費等 15万 旅行費 15万</p>
<p>⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)</p>

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
友人の誘いもあり、哲学部にあるチェスクラブに週一回通っていました。週末は博物館や美術館の見学に加え、郊外の見どころの訪問、古本屋巡りなどをしていました。友人の家に泊まりがけで遊びに行くこともありました。冬の長期休暇を利用して、2週間ザカフカースの三国を旅行しました。この時期にはロシア語が上達し現地の大学生と交流できました。
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
国際関係学部には留学生専用の窓口があり、対応はとても良いと思います。煩雑な手続きのほとんど全てをここで済ませることができます。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
電子書籍のシステムは充実していましたが、図書館の蔵書はあまり充実しておらず、利用することは少なかったです。PCやコピー機などの設備は一通り用意されています。コピー機・印刷機は性能が悪く、しばしば故障するので、市内のものを利用していました。構内の食堂は市内の食堂、カフェよりも値段、質の点で劣るのでほとんど利用しませんでした。
留学と就職活動について
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください
()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:) ()4.非営利団体(団体名又は分野:) ()5.民間企業(企業名又は業界:) ()6.起業(分野:) ()7.その他()
留学を振り返って
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
ネットや書籍を通じて世界中の情報が手に入る現在、なぜわざわざ遠い外国にまで行って勉強する必要があるのかと疑問に思われる方も多いと思います。確かに、留学前にゼミや書籍を通じて得た知識以上に知り得たことは多くありませんでした。収穫としては以下の二点に集約できます。第一に、多くのロシア語書籍が現地で比較的安価に入手できたこと。第二に、ロシアの政治や歴史、さらには政治、哲学一般について現地の学生と議論する機会に恵まれたことです。数少ないですが、インテリゲンチヤと呼ぶべき人間にも出会うことができました。彼らを通じて等身大のロシアを少しは見るのができたと思います。その意味でサンクトペテルブルクは私にとってロシアへの窓でした。

②留学後の予定
未定
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
少しでも留学に興味があるなら、留学することをお薦めします。私は半年弱の留学でしたが、短すぎました。色々難しいとは思いますが、できれば1年留学することをお薦めします。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
Империя Романовых и национализм (Historia Rossica новое литературное обозрение) Imperium inter pares (Historia Rossica новое литературное обозрение) ロシア・ロマノフ王朝の大地 (講談社)
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016年 7月 14日

東京大学での所属学部・研究科等:	文学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	サンクトペテルブルグ国立大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

ロシアで最古の大学。旧レニングラード大学。モスクワ国立大学に次ぐロシア第2位の大学。

留学した動機

目的は3つ。(1)ロシア語能力の向上(2)当該大学東洋学部で開講されているペルシア語、タジク語の講義の受講(3)現地の図書館を利用することでソビエト民族政策に関連する論文を完成させること

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015年	学部4	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:					
③留学期間等:	2015年	9月~	2016年	7月	
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2016年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	年		年生の		月頃に
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			66	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			不明	単位
	留学後の取得(予定)単位			18(卒論12単位分含め)	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2012年	4月入学	2017年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年				ヶ月間

⑨留学時期を決めた理由:

当初、大学院入学後にロシアへ留学することを予定していたが、前期課程の時のロシア語の教官に学部段階でのロシア留学の重要性に説かれた結果、考えが変わったため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

留学先の国際本部とのやりとり。当該大学の発行している留学の手引きに従って進めた。しかし、私の留学した東洋学部は、言語学部や国際関係学部とは異なり、交換留学生の受け入れに慣れていないこともあり、留学終了時期に関する手違いなど、トラブルが頻発したので、早め早めの連絡をお勧めする。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

まずは東京のロシア大使館で一回入国の90日間有効の学生ビザを取る必要がある。そのためには留学先大学のリコメンデーションレターやエイズ診断書のロシア語訳に公印を押したものが必要で、早めに準備しないと間に合わないという事態に陥りかねない。当該ビザは数日で取得できる。大使館のビザ発給受付時間は午前中のみで短く、かつ大勢の人で行列ができるので、早めに行っておかないと受け付けてもらえないことがあるので注意。1年間有効のマルチビザは留学後に取得することとなるが、2ヶ月以上待つ羽目になりその間は、サンクトペテルブルグ特別市を中心としたレニングラード州からは出られない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

肝炎の予防接種をした。現地ではドイツ製の薬が売っているが、高額なので、日本から持ち込んだほうがいい。キズ薬や頭痛薬、下痢止めなどがあると良いと、それらを持ち込まなかった私は痛感した。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

国際本部の指示に従い、長期有効の旅行保険に加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学許可を学部から受けるため学部長と学科長の捺印が必要であった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

留学開始段階でロシア語は欧州基準でB2レベルであった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日本の調味料。現地にはなく、辛くなる。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
ロシア語(ゼミ含む)	不明(履習時間の記載はあり)	●			
ペルシア語	不明(履習時間の記載はあり)				
タジク語	不明(履習時間の記載はあり)				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

ロシア語試験C1レベル(英語のトフルだと110点くらいに相当)に合格した。本格的な論文作成は1月から始めた。コツコツロシア語や英語の文献を読んでいった。大学ではペルシア語の講義が印象に残っている。課題は多く、少人数で、どんどん指名。基本的なスタンスは徹底的な丸暗記。これがロシア流スパルタ外国語学習法なのかと痛感した。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1学期は週8コマ。2学期は論文作成に努めたので週5コマ。しかし、1学期のトルコ語の授業に関しては、履修システムの複雑さ故に試験を受けさせてもらえなかった。平均すると1日の授業以外の勉強時間は5時間。

④学習・研究面でのアドバイス

時間はすぐなくなります。計画通りにはなかなかいきませんが、計画的に。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

銀行や行政機関の窓口のおばちゃんにまくし立てられるとさすがにきつかった。

生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
寮。寮費は月額4890ルーブル。2人部屋が2つ、3人部屋が1つ、共同キッチン、トイレ、シャワーで1セットという感じ。私は寮長のおばちゃんに1000ルーブルのチップを払っていたので2人部屋で1年間一人で住み続けることができた。基本的に西欧系と中国系の住民が集まってパーティーを夜な夜なするのでうささい。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
冬は寒い。氷点下30度は覚悟すること。交通機関、安い。しかし交通マナーは悪いので注意。食事、安いがまずい。クレジットカードは万が一に備えて2枚用意していた。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
公共交通機関での移民による強奪事件が多発している。実際に被害にあった留学生は数多。医療機関の質は低いので、くれぐれも健康には注意すること。冬場は日が出ずに鬱状態になった。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
ルーブルが急落したので、生活費交遊費本代月3万円プラス寮費月額7~9000円で間に合った。光熱費は払う必要がなかった。ただしルーブルの交換レートは乱高下するので注意。
・留学に要した費用総額とその内訳
航空費往復8万円。生活費交遊費本代30万円。寮費80000円。旅行代3万円。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
現地観光会社の遊覧船アナウンスの日本語バージョンを作成(45分間にわたるアナウンス)。外務省主催の日露学生交流イベントの事前打ち合わせに来た日本人担当者と現地大学の担当者との間で行われた会議での通訳(2回、計4日)など。大学の国際デーで「日本は移民を受け入れられるか?」というテーマでロシア語で20分間プレゼンし、質問に答えた。ペルシア語の授業の一環でペルシア語劇に強制的に動員させられた。

派遣先大学の環境について	
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)	
特になし。自力で生き抜こう。何か本当に困ったことがあれば全力で抗議(ロシア語)。留学経験者は口を揃えて言うが、ロシア人は一見冷たいが、本気でキレると優しくしてくれる。サポートされるかどうかは自分次第。	
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)	
図書館、小さい。貸出手続きも煩雑。食堂、まずい。Wi-Fiはつながるのでこれは便利。	
留学と就職活動について	
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど	
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響	
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)	
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください	
	1. 研究職
	2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
	3. 公的機関(機関名:)
	4. 非営利団体(団体名又は分野:)
	5. 民間企業(企業名又は業界:)
	6. 起業(分野:)
	7. その他()
留学を振り返って	
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感	
語学力向上、論文完成といった当初の目的以外にも、ロシアという日本人がステレオタイプで想像しがちな国の本当の姿を知ったこと、多くの素晴らしいロシア人と知り合えたこと、ロシア人と恋愛したこと喧嘩したこと・・・こうしたことはすべて自分にとって大きな財産となった。	
②留学後の予定	
大学院進学。これからもソビエト政治史研究を続けていきたい。	
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス	
ロシア留学はいい意味で精神修養となります。トラブルは必ず起きます。むしろ難局を楽しむくらいの気持ちで行ってください。	
その他	
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物	
宇多文雄・原ダリア『ロシア語通訳教本』東洋書店	
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。	
ホームページ等には載せてほしくないです。ロシア留学希望者にお見せになるのは良いのですが。	